

活動紹介 東大寺に泊まろう！～宿泊小坊主体験～

レポーター 渡邊 薫子（機構学生会員／東京大学教育学部）

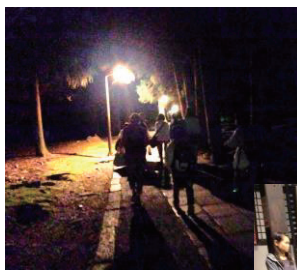
川畑 真帆（機構学生会員／東京大学法学部）

奈良県の世界遺産、東大寺の二月堂に宿泊し小坊主体験をするというこのプログラム。奈良支部が主催しており、全国から参加できます。2泊3日で行われ、内容盛りだくさんのこのプログラムを、一部ではありますがご紹介します。世界遺産に泊まるという、普段ではなかなかできない体験を通して子どもたちはどのようなことを学んだのでしょうか。

体験1日目

すっかり日も沈んで観光客もいなくなり、鹿の鳴き声が響き渡る夜8時の東大寺南大門前、東大寺小坊主体験に参加する12名の生徒たちが集合しました。普段は来る機会はほとんどない夜のお寺の雰囲気、昼間は聴くことのない、予想外に迫力のある鹿の声に子どもたちの興奮は高まります。

参加者が揃うとみんなお揃いの白い作務衣をはおり、南大門から二月堂まで夜の東大寺散策を開始します。ほとんど灯りもない中、突然視界に現れる鹿にびっくりしつつ、初めて会う3日間を共に過ごす仲間たちと話しつつ歩けば眼前には、ほんのりとした明りに照らされた幻想的な二月堂が現れました。長い階段を上って、夜は休まれている仏さまを起こさないよう静かに静かに進みます。



〈夜の東大寺散策〉



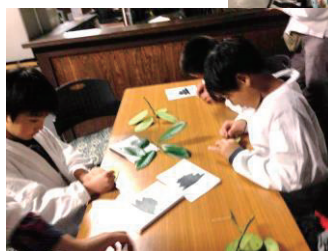
〈平岡副院長様からのお話〉

まずは開会の挨拶とオリエンテーションです。東大寺の平岡副院長様からのお話をしっかりと聴きます。今後の活動にむけてしっかりと心構えを持ったら、アイスブレイクへ。3日間一緒に生活をする仲間たちとの仲を深めます。

そのあとスタッフが取り出したのは…一枚の葉っぱ。でもただの葉っぱではありません。この葉っぱは「タラヨウ」といって東大寺にも樹が植わっているのですが、なんと裏側に傷をつけると文字が書けるのです。今回はこのタラヨウの葉で名札を作ります。つまようじで葉の表面を引っ掻いていくのですがこれがなかなかむずかしくコツが必要でした。試行錯誤しながらもみんなそれぞれオリジナルティにあふれた名札を作っていました。名札を作り終えたら、参加者全員で自己紹介をしました。



〈自己紹介〉



〈葉っぱで名札づくり〉

次はタラヨウにメッセージを書きます。何とこの葉に宛名を書き切手を貼れば配達してもらえるそうです。確かに「葉書」っていうなあとここで一つお勉強。生徒たちは各自家族など送りたい人へ思いを込めて一生懸命に葉と向き合っていました。この「葉書」が届いたときの反応が楽しみです。

夜も更けてきたところで夜食を食べて就寝準備へ。もちろんお皿の片付けも布団の準備も自分たちで行います。明日に向けておやすみなさい。

体験2日目

朝6時に起床。眠い目をこすりながら…と思いきや意外とみんな早起きでした。お布団を片付けてから作務体験へ。二月堂の本堂の壁や通路、階段を掃除します。時期が時期だけに通路にははいてもはいても落ち葉がたくさん。心を込めて綺麗にしました。



〈朝の集合〉



〈二月堂をお掃除。心も綺麗に！〉



〈社長さんから作り方の説明〉

朝ごはんを食べて腹ごしらえした後は、自分たちが泊まる参籠の部屋もお掃除。休憩をはさんだら大部屋に集合して「ミニ鬼瓦づくり体験」をしました。作り方を教えてくださいるのは「瓦道」の社長さんです。四角い粘土の塊をこねて、丸めて、鬼瓦の型にギュッと押し込みます。ここで隙間なくつめるのがポイントです。余った部分を取ってもらって平面の部分には思い思いの言葉を彫りました。ここでもみんなそれぞれ個性が出ていて面白い！2週間ほどで焼き上がるそうで、完成が楽しみです。



〈鬼瓦づくりの様子と作品〉



午後は、東大寺や周辺を探索。グループに分かれて、行きたいところを相談します。オリジナルマップが完成したら、いざ出発！



大仏殿に行ったグループは、「大仏の手のポーズにはどういう意味があるんですか？」と早速スタッフに質問。右手は「おそれないでいいですよ」、左手は「みんなの願いを叶えますよ」という意味であることを聞くと、自分たちでポーズをとりながら意味を確認していました。



鹿苑に行って、傷ついた鹿のことを知ったグループもありました。



夕食は、みんなでお鍋。スタッフに教えてもらいながら、子どもたちが作ります。普段はあまりごはん作りの手伝いをしていなかったという男の子も、野菜を切っているうちに楽しくなってきたようで、「これからは家でも手伝おうかな！」と言。



お鍋で温まった後は、平岡副院長様と一緒に、『般若心経』の読経を体験しました。背筋を伸ばし、声をそろえて朗々と読んでいるうちに、心が落ち着いていきます。



その後は、絵本作家の方による『東大寺縁起』の読み聞かせを聞きました。難しそうに思える神話や仏教説話も、絵本で読むことで楽しく勉強できました。

最終日は、写経体験をした後、グループでの振り返りと発表で東大寺小坊主体験が締めくくられました。貴重な体験と新たな学びが盛りだくさんの3日間でした。

活動紹介 夏休み学習ゼミナール & 学習相談

植阪友理（機構会員／東京大学大学院教育学研究科 助教）
篠ヶ谷 圭太（機構会員／日本大学経済学部 准教授）
木澤 利英子（機構幹事／東京大学大学院教育学研究科 大学院生）

「大学で勉強できるなんて何だか特別な感じ…」

「学校で教わるのとはちょっと違う…」

学ぶ力を育てたい。そんな思いで動き出した大学のプロジェクト。

子どもたちの学習に大学がどう貢献できるか。二つの取り組みをご紹介します。

(1) 学習ゼミナール

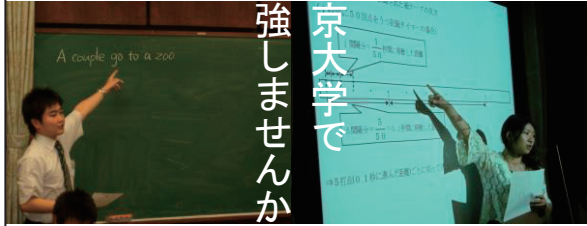
学習ゼミナールは、夏休みに東京大学で開催される参加費無料の学習教室です。東京大学教育学研究科の市川伸一研究室が主催し、地域の中学生が5日間参加します。2002年に開催されて以来、今年で15年目を迎え、現在、文京区および台東区の教育委員会から後援を受けての実施となっています。

対象は中学校2年生。文京区や台東区、東京大学附属中等教育学校に学校を通して参加を呼びかけ、多い年には150名を超える中学生の参加があります。参加者は30名程度のクラスに分かれ、1日に2～3科目の授業を受けます（実施年度によって異なる）。

授業を担当するのは、教育心理学を専攻する大学教員および大学院生です。各授業担当者は、心理学の知見を踏まえながら、効果的な指導方法を考案し、実践します。ただ分かりやすく教科知識を教えるのではありません。様々な工夫をしながら自分で学習を進めていく力を育むことを目指して、授業は構成されています。

実施後のアンケートを見ると、参加した中学生にとって、大学という場で、しかも大学の先生や大学院生に勉強を教わるという経験が、とても大きな刺激になっていることがわかります。また、勉強の方法や、勉強に対する考え方そのものを中心的に扱う授業は、とても新鮮に感じられるようです。

学習ゼミナールでは、参加される生徒さんだけではなく、授業者となる教員や大学院生も学んでいます。教え方、学び方を研究する心理学者にとって、実際に自分で教え、子どもたちの反応や様子を自分の目で確かめることは、何にも代えがたい経験になります。



勉強しませんか？

東京大学で

東京大学教育学研究科には、教育方法を研究している大学院生がたくさんいます。
今年の夏休みは、大学の教室で、彼らの工夫した授業を受けてみませんか。

東京大学 教育学研究科

夏休み 学習ゼミナール

受付中

【期間】 A日程 : 8/2・8/4・8/6・8/8・8/10 (全5日)
B日程 : 8/3・8/5・8/7・8/9・8/11 (全5日)

【時間】 午後5時～8時

【科目】 A・B日程 : 国語、数学、英語、理科、社会から3教科

【費用】 無料

【対象】 原則として文京区・台東区の中学2年生
(5日間全出席できる方)

【場所】 東京大学教育学部

※応募者が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます

【申し込み方法】
まずは、E-mail(gakuzemi@p.u-tokyo.ac.jp)またはお電話(080-3344-1664)でご連絡ください。
詳しい資料と申し込み用紙をお送りいたします。
※ 締切は7月3日(金)です。

東京大学大学院教育学研究科市川研究室

大学を舞台に開催されているこの学習ゼミナールは、参加する中学生、教育研究を行う大学院生双方に対して、日常では得難い学びの場を提供するものであり、画期的な地域教育プログラムのモデルといえるのではないのでしょうか。

(2) 学習相談

東京大学の市川研究室では、文京区教育センターと協力し、心理学を生かした個別学習相談（認知カウンセリング）を行っています。ここでは、5回から10回程度の個別学習相談を無料で受けることができます。指導にあたるのは、東京大学やお茶ノ水大学の大学生・大学院生を中心とするメンバーです。市川研究室を卒業した大学の先生も指導に加わっています。

ここでの指導は、いわゆる家庭教師や補習授業とは異なっています。もちろん、分からない問題を分かりやすく教える場ではありますが、それだけではなく、勉強のやり方自体を見直し、改善していくことも目標にしています。ここに通う生徒さんの悩みとしては、例えば、「時間をかけているわりに成績が伸びない」、「うまく覚えられない」、「やる気が出ない」などがあります。ここでの指導を受けたからといってすぐに成績が劇的に変化するわけではありませんが、まず、自分の勉強方法にはどのような問題点があるのか、自分の悩みはなぜ起こっているのかを一緒に考え、より良い方法を体験してもらうようにしています。

一口に勉強方法といっても、その人の悩みに応じて、学校の授業の受け方、予習・復習の仕方、質問の仕方、テスト直しの方法など、ここで扱われる勉強方法は実に様々です。指導場面では、一方的に話を聞くのではなく、やり取りをしながら、悩みがすこしでも解決するように考えていきます。

現在は、文京区の中学校に通う生徒さんを中心に、10人が学んでいます。今年度からは、

文京区の小学校に通う児童にも対象を広げる予定です。生徒さんや保護者の方からは、「記憶力に問題があるということは教育センターで指摘されたことがあるけれど、どうすればうまく覚えられるようになるのかが分らなかった。ここでそうしたことが学べてうれしい」といった声が聞かれています。年の近いお姉さんお兄さんと一緒に勉強することを楽しみにしてくれている参加者も多くいます。

なお、ここで指導に当たっているメンバーは定期的に会合を行っています。こうした会合には、学校現場の先生、大学の研究者、先生になりたい学生などが集まります。どのような悩みを抱えた児童・生徒が来ているのか、また指導法はどうであったのか、より良い指導法はなかったのか、今度どう指導していくべきかなど、議論を行って力量の向上にも努めています。

文京区教育センターと東京大学市川研究室との協定事業

いよいよ **秋** **学習相談開始**
勉強のやり方に悩みはありませんか？

時間をかけているのになかなか成果に結びつかないということはありませんか？

心理学をいかした個別学習相談（認知カウンセリング）を文京区教育センターで実施します。
東京大学やお茶の水女子大学の大学生・院生が先生となって、5回から10回程度の相談を重ねていきます。
日程は、部活の日などをはずして設定するなど、面談する先生と相談しながら決めることができます。
参加費は不要です。

保護者の方へ
今年度は試行的実施で、募集人数は5名程度です。本人のやる気を重視します。保護者の希望だけで申し込むことはご遠慮ください。自分から行きたいというのを待つようにしてください。

会場：文京区教育センター
申し込み方法—以下の2つから選んでください
①E-mailにて裏面の情報を送信 (y.uesaka@p.u-tokyo.ac.jp)
②裏面の用紙にご記入の上、Faxか郵送
Fax: 03-5841-4915
住所：文京区本郷7-3-1東京大学教育学部、市川伸一研究室
問い合わせ先：上記メールかFAX（担当：助教、植阪友理）

東京大学市川研究室による認知カウンセリング



活動紹介 認定証取得者の集い

渡邊 薫子（機構学生会員／東京大学教育学部）

2015年3月28日、文京区にある東京大学本郷キャンパスにて、記念すべき第1回の「学びのポイントラリー 認定証取得者の集い」が開催されました。集いの参加者は、プログラムに参加して40ポイントをため、認定証を取得した児童の皆さん。今回は児童22名とそのご家族が参加しました。子ども同士、大人同士が地区や学校の垣根をこえて交流する、活気のあるイベントとなりました。

今回は一部ですがご紹介します。

集いは地域の学び推進機構の市川伸一会長（東京大学 教育学部教授）の挨拶で幕を開けました。会長から学びのポイントラリーの活動の目的や理念などをお話します。会場は東京大学本郷キャンパス。児童、保護者で分かれて座ります。学校や地区の違う仲間との出会いにまだまだ緊張した様子です。挨拶が終わると記念品贈呈です。見事40ポイントをためて認定証を取得したみなさんひとりひとりの名前を読み上げ、前に出て記念品の機構特製缶バッチを贈呈しました。



〈機構の市川代表から挨拶〉

茶話会

茶話会では4～5人ずつ分かれて座った各テーブルで子どもたちが地区・学校の垣根を越えて自分の「学びのポイントラリー」活動について話し合い、意見を交換しました。各テーブルには機構スタッフも入り、「こんなプログラムがあったらぜひ参加したい！」

「ポイントラリーのこってどういうことなの？」

など、参加している児童ならではの声も聴くことが出来ました。その日初めて話す子ども同士のディスカッションは、はじめぎこちなかったものの、自分の地区にはないプログラム情報や、感想を言い合ううちに打ち解けていく様子が見られました。

また、保護者のテーブルでも地域ごとの情報交換や、機構・学びのポイントラリーの仕組みについての質問などが活発に飛び交い、非常に有意義な時間となりました。



〈テーブルごとに意見交換する様子〉

パネルディスカッション

各テーブルから1人代表の児童に出てきてもらい、機構スタッフとの会話形式で、グループで話し合ったこと、自分の「学びのポイントラリー」での経験、感想などをひとりひとりに発表してもらいました。代表者の児童は緊張しながらも生き生きと自分の活動について話していました。



〈パネルディスカッション〉

東大探検ツアー

集いの最後は、現役東大生ガイドによる「東大探検ツアー」。自由参加にもかかわらずほとんどの方がそのまま参加してくれました。初めて入るという人もいて、東京大学にみなさん興味津々な様子でした。このツアーではポイントごとにいくつかクイズを出題しました。全問正解者にはなんと素敵なプレゼントを進呈！ということで気合十分で出発しました。

ツアーは赤門をスタートして福武ホールから正門へ。イチョウ並木を通して安田講堂に向かい、三四郎池や御殿下グラウンドなどを経由して赤門にもどってくるというコースです。現役東大生ガイドから、実際にキャンパスに通う学生ならではの「東大あるある」や各地の歴史、豆知識などの話を聴きながらまわります。幸い当日は天候にも恵まれ、桜が咲き始めている様子も見られ季節も感じながら歩くことが出来ました。クイズは3択で出題。「安田講堂の高さはどのくらい？」という問題には、スマートフォンを活用して高さを測ろうとする様子も見られガイドの私は驚かされました。他にも分からない問題でも、

付近に立っている看板を目ざとく見つけ、そこから答えを探し出してくるなど、楽しんで参加していました。



〈三四郎池〉



〈安田講堂〉

今回の集いには「東大に行ってみたい」という理由で参加した児童も多く、この機会に自分の住む地域の歴史や建造物に興味をもってくれたらうれしい限りです。今回が初めての開催でしたが、他地区、他校の仲間と意見を交換し、さらに学びへの意欲を高めるきっかけとなる会となりました。今後もたくさん子どもたちがポイントラリーに参加し、40ポイントをためて認定証取得を目指してほしいと思います。この集いがその一つの目標になればうれしいです。



学びのポイントラリー 認定証取得者の集い

〈最後に全員で記念写真〉

活動紹介 機構主催のセミナーやシンポジウム

地域の学び推進機構は、地域教育の促進のために、講師を招いてセミナーを主催してきました。

また、学びのポイントラリーの運営に関わっている団体によるシンポジウムを開いて、情報交換や交流にも務めています。

それらの活動の一部を紹介します。

第1回 地域教育応援セミナー 地域プログラムの安全対策

日時：平成21年2月21日(土)

13:00～16:00

場所：東京大学教育学部 156教室

内容：

13:10～ 講演：中野良顯（NPO法人 教育臨床研究機構理事長）「多様な子どもへの対応」

14:00～ 当機構幹事から 「地域プログラムでの安全・事故対策」

15:00～ 当機構幹事 「学びのポイントラリーをプログラム評価に生かす」

第3回 地域教育応援セミナー （地域教育推進シンポジウム in 東京） 地域教育団体をつなぐ協働のしくみづくり

日時：2011年11月8日（火）

18:30～20:30

場所：東京大学赤門総合棟 A200教室

内容：

18:30～ 市川伸一（当機構会長）「企画趣旨と『学びのポイントラリー』の紹介」

18:50～ 青木美奈（公益財団法人 文京アカデミー）「地域人材、大学生たちを活用するには」／金子嘉宏（一般社団法人 教育支援人材認証協会）「地域教育支援人材をどう育てるか」

19:40～ 質疑応答と全体討論

第1回 地域教育シンポジウム 「学びのポイントラリー」による地域教育の活性化

地域教育の活性化のしくみとして「学びのポイントラリー」がスタートしてからほぼ10年が経過しました。岡山県では、井原市、美咲町、矢掛町で活発に実施されています。このシンポジウムは、活動のいっそうの発展を図るために、お互いの悩みと工夫を出し合い、有効な情報交換と交流の場とするために企画されました。

日時：平成26年7月26日(土)

9:30～12:00

場所：岡山市 ピュアリティまきび

内容：

基調講演 市川伸一（当機構会長）

各地域からの報告（井原市、美咲町、矢掛町、奈良市、貝塚市、渋谷区）

パネル討論 「地域教育の活性化に向けて」

「学びのポイントラリー」 参加体験記

児童・生徒の作文から

プログラムへの参加体験記や、ポイントラリーについて的小論文を募集しています。
せっかく参加したプログラムでの貴重な体験。
学んだことを作文に残しておこう。この作文もポイントの対象になります。
このしくみができてから、多くの参加体験記が寄せられています。

以下の作文の学年は、寄せられた当時のものです。

ひがたあそび

宮田 栞里（文京区 小1）

ひがたのうみのちかくで、おおきななにかいました。かにはしかくい
たちでした。かにのなまえは、あしはらかにでした。ほかにも、こめつき
かにややまとおさがにかいました。ちごがには、あお、しろ、あかちゃい
ろでした。いちにいちにと、ちょうしをとりながら、みぎてをあげていま
した。いちでみぎてをあげて、にでみぎてをさげていました。ほかにも、
だんすをおどるかにがいるといいですね。どのようなちょうしをとって
るのでしょうか。ちごがにのようなちょうしでしょうか。それとも、またあ
たらしいちょうしでしょうか。もっといろんなことをしりたいです。

バランスのたつ人 ～スラックラインとでんしょうあそび～

大森なつき（品川区 小1）

8月4日、スラックラインのたいけんに行きました。
ひもは4センチぐらいしかなかったです。そこを手をはなしてわたれました。
わたりはじめのしゅん間がこわかったです。
竹とんぼやさらまわしもしました。
竹とんぼをした時思ったよりたかくとんだのでとてもうれしかったです。
先を下にしてつよくとばすともどってくるといわれてやってみたら本とうでした。
さらまわしはとてもむずかしくてどんなにがんばってもできませんでした。
また今ど行ってみたいです。

おちゃきょうしつについて

神尾 みなみ（江東区 小1）

ウィークエンドスクールのおちゃきょうしつで、こどもまつりにむけて、いっしょうけんめいがんばってきました。おゆをいれるときに、やけどにならないように、きをつけました。あつくてたまりませんでした。ちゃわんをおとさないように、ドキドキしながらやりました。そのあとに、おなつめの中にはいっている、おまっちゃんのをかんがえるのがむずかしかったです。

こどもまつり本ばんがやってきました。ドキドキしながらきょうしつにはいると、おちゃの先生が「みんな、きょうははりきってね。」て、いってくれました。わたしは、「ようし、きょうは、はりきるぞ。」とおもいました。

しばらくして、おきゃくさんがきてくれました。おきゃくさんが「おいしい。」っていってくれました。そのときわたしは「やっぱり、いろいろまなんだからかなあ。」っっておもいました。そうして、わたしのばんがおわって、わがしをもらいました。中みは、うさぎのおまんじゅうと、花がらのつつみがみのおせんべいでした。おにいちゃんは、ソーダのあめをもらいました。いえへかえってたべました。おいしかったです。

こんどのおちゃきょうしつは、わがしづくりをやるそうです。たのしみにしています。もっといろんなことをしりたいです。

ホタルかんしょうウォーキング

松本 満帆（奈良市 小1）

6月29日にお父さんと奈良市青少年や外かつどうセンターへ行き、ホタルかんしょうウォーキングにさんかしました。5じにしゅう合し、じ元のなす、人じん、玉ねぎ、じゃがいも、牛にくのカレーをつくりました。私は人じんとじゃがいものかわをむき、ほう丁をもちじゃがいもを六こにぎりしました。カレーのつくりかたをやってよかったです。ほう丁をつかうときの体のかくどがわかりませんでした。なすがきらいなので、お父さんにあげました。お母さんの手づくりカレーのほうがおいしいです。白すな川へみんなでホタルをみに行きました。ホタルが34ひき、カエルが2ひき、小やモリ2ひき、大やモリ1ひきがいました。ほたるを手のひらにのせるとホタルは小さいことがわかりました。そして、ほたるをさわるとホタルがあたたかくなることがわかりました。やモリはすばやくうごいていてねんちゃく力がつよかったです。よるだけど明るかったのでこわくありませんでした。お父さんとフリスビーであそんだことがおも白かったです。手のひらのほたるが光ると、まぶしいときもありました。

8月8日、わたしは印刷博物館に行きました。まずさいしょに、寒天をつかって印刷しました。紙に印刷したい字や絵をえんぴつで書いてから、インクでなぞります。インクがかわいたら、寒天がはいっているはこに、なぞった紙を寒天にあてます。そのあとローラーでたいらにそとなでます。しばらくして、インクがうつっていたら印刷できます。わたしは「なつ休み」という字とあさがおの絵を紙に印刷しました。むかしは、コピーきがなかったので、寒天やこんにゃくをつかって、かんたんな字や絵を印刷したそうです。

つぎは、かつ字をひろって、えい語で自分の名前をコースターに印刷しました。名前をひろうのは、かんたんでしたけど、名字をひろうのは、ちょっとだけむずかしかったです。インクを2回かるくつけて、3回目に思いっきりレバーをおします。すると、くっきりと自分の名前がコースターにうつりました。印刷するには力があるなぁと思いました。今はコンピューターやコピーきがあってべんりですが、むかしは印刷するには時間がかかってたいへんだなぁと思いました。とてもたのしかったので、またいきたいです。

ぼくが二年生の時の五月にウィークエンドスクールが始まりました。手作り遊びや伝しょう遊びがあって、しだいに楽しくなってきました。

でも、そのころは、ポイントはもらえませんでした。ポイントがはじめてもらったのは、夏休みにやったかんきょうすごろくです。水を大切に、ゴミをふやすな、いろいろな言葉がでてきました。そして、いよいよ出来上がりました。そして、樹木はかせを次にやりました。木の名前をおぼえたり、草の名前をおぼえたりしました。おぼえるのは大変だったけどすごく楽しかったです。

十月ごろからウィークエンドスクールでもポイントがもらえるようになりました。ポイントがたまってきた、だんだんうれしくなりました。

二年生の冬ごろに、インフルエンザで野球教室を一回だけ休んでしまいました。それ以外は全部出ていました。ようち園の妹もあの野球教室以外はいっしょに出ました。

ウィークエンドスクールの中で一番好きな教室は、キンボール教室です。ヒットを打ったりボールをとるところが面白いです。ほかにも、お茶教室、ゲーム教室、パソコン教室、そして今度は料理教室に出ることになっています。

ポイントをためるカードを全部うませたのが、全国でだいい号とわかって、すごいびっくりしました。にんていしょうをもらって、すごいうれしかったです。

葉脈標本のしおり

福嶋 郁人（文京区 小4）

10月31日に、『葉脈標本のしおり』に参加しました。ぼくは、前に葉脈本のしおりをもらったことがあって少しちがいました。もらったしおりは葉脈に色をつけていましたが、ぼくたちが作ったのは葉脈には色をつけなくて色紙やシールでオリジナリティーあふれる世界で1枚のしおりでした。

まず葉脈の説明がありました。葉脈とは人間に例えると、みんなの体に栄養を運ぶ血管と同じで、葉脈は葉っぱに栄養を運ぶものです。

次に一枚アカメカシワの葉で練習しました。本番はヒイラギモクセイの葉でした。博士たちが水酸化ナトリウムで煮てくれた葉を、水で洗って歯ブラシでトントンたたいたり、こすったりしました。ぼくは、表はトントンとたたいて裏は一回でシャーッとはがし取りました。大成功しました。葉脈を好きな色紙にシールをはって、しおりの完成です。

どうして葉脈だけになるのかと言うと、葉は主にタンパク質でできていて水酸化ナトリウムはタンパク質をとかすからです。

今度はもっと大きいカエデの葉で、やってみたいです。

セミのぬけがら調さに参加して

岩波 詩歩（文京区 小4）

私は、8月26日にセミのぬけがら調さに参加しました。場所は小石川植物園でセミの鳴き声がうるさいほど聞こえました。

さがし始めてから、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシと色々なぬけがらをたくさん見つけました。

「ニイニゼミはこの時期あまりないですよ。」と言われましたが、一匹のメスのぬけがらを見つけることができました。

他にも、セミのことだけでなく、色々な植物の事もおしえていただきました。

この会に参加して気がついたことがあります。最初、私はセミは木にいるのでぬけがらも木についていると思っていました。しかし、実際は木にちかいところにある葉っぱのうらにたくさんありました。

またスタッフの方に、区別の仕方や見分け方などをおしえていただいたのでセミのぬけがらの事がよくわかりました。

～後で思ったこと～

私は家に帰ってから気がついたのですが、今年元気に鳴いているセミたちは、7年前にたまごのじょうたいで土の中に産みつけられて、無事に地上に出てこられた蟬だと思いました。だから今回多かったセミの種類は、7年前に多くいたセミの種類なのかなあとと思いました。

文京区の和田さんきょうだいは、奈良のプログラムに参加して作文を書いてくれました。

一休さんの寺子屋体験に参加して 和田 あゆみ（文京区 小2）

せかいいさんのマークをおしえていただいたり、日本には14こせかいいさんがあるなかで、奈良がほかの所よりも多く、3つもあって、奈良はさいこうにすごいなあと思いました。せかいいさんには、「こと奈良の文かざい」でとうろくされています。

そのあとハイキングがありました。さいしょは、車にのろうかと思ったけれど、車にのらず、きちんとさいごまで、12キロあるけたのでよかったです。

アイスづくりも、ドロドロになってしまったけれど、がんばったのでよかったと思います。みなみがいと先生とつくった「みなみがいとカレー」もすっごくおいしいトローリとした、おいしくてホカホカでよかったです。

一休さんの寺子屋体験に参加して 和田 徳之（文京区 小4）

ぼくは、二泊三日の中で、一番つかれ、楽しかったハイキングのことを書きます。

ハイキングは全部歩いて約12キロあると聞いたので、「がんばるぞー。」と、とてもはりきっていました。「全部歩きたい。」と思いました。道は、奈良教育大学から野外活動センターまでです。

ハイキングに出発しました。山はどんな山でもはじめは上がっていかねければなりません。とてもけわしい所があったので、歩くのが大変でした。そこにヒョコヒョコとサワガニが横歩きで来たので、つかまえました。先生からもらった300mlのペットボトルに入れて、また山道を歩きました。

峠の茶屋に着きました。さっ速お弁当を食べて、もらったわらびもとを食べました。足のいたみはなおるし、お弁当とわらびもちはおいしいし、気分は最高でした。

1，2年生は、その茶屋がゴールなのに、妹はまだ本当につかれていないのかと思うぐらい元気でした。

下りになりました。みんなリタイアしていった、とうとうぼくの班は3人になりました。11人いたのに3人しかいなくなったのはさみしかったです。（もちろん妹は最後まで歩きました。）

3人で歩いた道は、スタッフの人としりとりをしたりしたので、すぐ着きました。楽しかったな、ハイキング。

保護者からのメッセージ

参加した児童・生徒の保護者から

認定証の申請のときには、
保護者の方がご意見や感想を添えてくださることがあります。
保護者から見た「学びのポイントラリー」は、
どんなものでしょうか。

杉浦美鈴さん(文京区)のお母さんから、説明会のあとで

ポイントラリー説明会で質問に答えていただき、ありがとうございました。
これからもポイントラリーで親子共々知る楽しみ、体験で得た感動を分かち合っていきたいです。このような活動がどんどん広がっていくといいですね。
私も1歳半から小学生の子ども達に絵本や歌、マザーグースなど遊びながら教えるラボパーティという活動の指導者なので、何かボランティアでやってみたいと思っています。

認定証をたくさん取得している神尾さんきょうだい(江東区)のお母さんから

1年生になって、ウイークエンドスクールに正式に参加できるようになったので、お兄ちゃんと一緒に、いろいろな教室にでています。毎年11月ごろに、東川小の「こどもまつり」があり、PTA主催でバザーや模擬店を出すのですが、昨年からウイークエンドスクールの発表もおこなうようになりました。和太鼓の演奏や、お茶席(お客様に子ども達がお茶とお菓子を接待します)、ダンス発表などです。

お兄ちゃんは、昨年に引き続き、和太鼓の演奏をがんばりました。成果を見せられる場があると、子ども達の励みにもなるようです。ちなみにキンボール教室は、毎年3月に大会があり、それに向けて練習をしています。

奈良のプログラムに参加した和田さんきょうだい(文京区)のお母さんから

今回子ども達と参加させていただき、元気いっぱい戻ってきました。大変有意義な講座や自然の中を自分の力で歩きとおすことなど、親と離れた所で頑張って、そして自信をつけています。

神尾さん(江東区)のお母さんから、詳しいお手紙もいただいています

先日は、早速に認定証を送っていただき、ありがとうございました。本人にとっては、毎週ウィークエンドスクールに楽しく参加しているだけなので、正直なところ「認定証」の意味合いはよくわかっていないかもしれません。

ただ、朝礼で校長先生に紹介していただいたり、何よりポイントカードが全て埋まったことで、本人もうれしかったようです。

ウィークエンドスクールについては、当初から親子で楽しみにしていきまして、幼稚園の下の子と一緒に毎回参加しています。場所が小学校なので、わざわざ遠くに足を運ばずにすみますし、ほとんどの講座が無料、他学年の子とも一緒に交流でき、いいことづくしです。

けれど、現実問題として、例えば土曜日も親御さんが仕事だったりして、子どもだけで留守番あるいは児童館や公園に一日中いたりするような家庭の子どもたち、私の目からみて、こんな子たちこそウィークエンドスクールに来て遊んだらいいのにと考える子ども達の参加はほとんどありません。土曜日は習い事が多いのも事実かもしれません。また、高学年の子どもですと、親の方はウィークエンドスクールに参加して欲しいと思っけていても、実際の子どもの方は、友だちと出かけたりするほうが楽しいと思っけているのかもしれない。低学年ですと、親のほうが強いのか、子どもは〇〇講座に出たいのに、親が勝手に××講座に申し込んでしまったり…行きたくないという子に強制してしまったり、いろいろな問題を見聞します。

校庭で野球教室をやっていて、同学年の子が楽しげにキャッチボールをしていても、何の興味も示さずゲームボーイの類に熱中し、連れ立って駄菓子を買って食っている子ども達を見ると、いろいろ考えさせられたりします。

私たち大人の責任でしょうが、今のうちに何とか…それこそ地域の大人たちみんなの目で見守ってあげないと、と強く感じます。

勉強ももちろん大切でしょうが、たくさんの大人たち、人と関わり、いろいろな経験、あそび体験をすることは、人として育っていく上でとても大切なことだと思います。またそんな経験を通して子ども達の興味・関心もどんどん広がっていくでしょう。

これからも親子で楽しく、地域の子供達と一緒に遊ぼうと思っています。

ちなみに私は「樹木はかせ」が楽しかったです。下の娘がすっ転んで泥だらけになるハプニングもありましたが、大人も童心に帰れて、習った木の名前もまだいくつかは覚えています。子どもと一緒に体験すると、思い出も一緒に共有できて、やっぱりいいですね。